

大阪, 2017.03.04

凍結融解胚盤胞移植においてどの指標を胚選択の基準にするべきか？

大浦 朝美¹⁾、富田 和尚¹⁾、佐藤 学¹⁾、橋本 周¹⁾、中岡 義晴¹⁾、森本 義晴²⁾
医療法人 三慧会 ¹⁾IVF なんばクリニック、²⁾HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】 当院では選択的単一胚盤胞移植を行ってきたが、どの胚盤胞を優先し移植胚として選択するか悩むことがあった。そこで、移植胚の優先基準を検討した。

【方法】 2009 年 1 月～2012 年 12 月で凍結融解単一胚盤胞移植を行った 2110 症例を対象とし、培養日数 (D5 or D6)・拡張ステージ (BL3～6)・内細胞塊 (ICM : A or B)・栄養外胚葉 (TE : A～C)・Blastocyst Quality Score (BQS)、それぞれの因子が妊娠、生産及び流産に及ぼす影響についてロジスティック回帰分析を用いて解析した。

【結果】 妊娠に影響を及ぼす上位 3 因子は、TE (OR; 2.077, 95% CI; 1.229-3.511, $p<0.05$)、培養日数(OR; 1.873, 95% CI; 1.524-2.301, $p<0.05$)、拡張ステージ(OR; 1.765, 95% CI; 1.359-2.292, $p<0.05$)であった。生産に影響を及ぼす上位 3 因子は、培養日数 (OR; 1.870, 95% CI; 1.512-2.313, $p<0.05$)、TE (OR; 1.790, 95% CI; 1.051-3.050, $p<0.05$)、拡張ステージ(OR; 1.662, 95% CI; 1.272-2.173, $p<0.05$)であった。流産に影響を及ぼす上位 3 因子は、TE (OR; 1.761, 95% CI; 0.756-4.101, $p=0.1893$)、拡張ステージ (OR; 1.296, 95% CI; 0.854-1.967, $p=0.2229$)、ICM (OR; 1.269, 95% CI; 0.567-2.838, $p=0.5627$)であった。

【考察】 妊娠、生産及び流産にはいずれも TE が大きく影響を及ぼしていた。TE による胎盤形成は妊娠成立及び、その後の妊娠継続にも重要であることが再確認された。現在は、今回の結果に基づき最優先胚を選択移植して結果を検証している。